

# 由利

立教186年 令和5年

7月号



## 秋田教区婦人会総会

六月

一ヶ月間の主な歩み

- 一六日 クリーンデイYURI
- 一九日 北蒲原分教会月次祭
- 二二日 大教会月次祭
- 二六日 御本部月次祭、由利婦人会

七月

- 一日 教区婦人会総会
- 三日 支部例会（由利分）
- 五日 お願いづとめ、お墓掃除
- 七日 おさづけ取次日
- 八日 今野マキ子刀自告別式
- 九日 今野正治家墓じまい
- 九日 伊藤広喜家年祭、墓じまい
- 十日 伊藤広喜家神実様おもどし
- 一二日 役員会議
- 一三日 由利分教会月次祭

# 今月の言葉

由利分教会長

佐々木 正明

教祖逸話篇三十九『もつと結構』  
を拝読して思う事

この度の教祖百四十年祭の論達では、「ひながたを目標に教えを实践する事の大切さ」が書かれていると思いますが、そのひながたを学ぶ一環として、教祖逸話篇にさらに親しむ事もその一つのように思います。この度の今月の言葉では、道友社発行書籍、「逸話のこころ訪ねて」を参考にして、教祖逸話篇三十九『もつと結構』を紹介し、私の感じる事を述べさせて頂きたいと思います。

『明治七年のこと。西浦弥平の長男檜蔵(註、当時二才)が、ジフテリアにかかり、医者も匙を投げて、もう駄目だ、と言うている時に、同村の村田幸四郎の母こよから、にをいがかかった。お屋敷へお願いしたと

ころ、早速、お屋敷から仲田儀三郎が、おたすけに来てくれ、ふしぎなたすけを頂いた。弥平は、早速、檜蔵をつれてお礼詣りをし、その後、熱心に信心をつづけていた。

ある日のこと、お屋敷からもどつて、夜遅く就寝したところ、夜中に、床下でコトコトと音がする。「これは怪しい。」と思つて、そつと起きてのぞいてみると、一人の男が、「アッ」と言つて、闇の中へ逃げてしまった。後には、大切な品々を包んだ大風呂敷が残っていた。弥平は、大層喜んで、その翌朝早速、お詣りして、「お蔭で、結構でございました。」と、教祖に心からお礼申し上げた。すると、教祖は、「ほしい人にもろてもろたら、もつと結構やないか。」と、仰せになった。弥平は、そのお言葉に深い感銘を覚えた、という。』

これが逸話篇の内容ですが、「逸話の心たずねて」では、『この教祖のお言葉を聞いた弥平さんは、難を逃れた事だけを喜んでいるようでは、

まだ御利益信心の域を出ていないと反省し、帰路、「なるほど教祖は神様や、世界の人間の親や。なるほど、なるほど」と合点したと伝えられている。』と書かれています。弥平さんは、入信後そんなに年数は経っていないと思うのですが、教祖の言葉を頂いてすぐに、『なるほど教祖は世界の人間の親や。なるほど、なるほど。』とよく受け取れたものだと感じ致します。普通世間一般の人や信仰もない人だったら、『泥棒に持っていかれたらもつと良かった。』なんて言われたら、この教祖様、ちよつと考え方がおかしいのではないかと疑う人も多いのではないのでしょうか？

他の逸話篇の場合でも感じる事ですが、この逸話篇に登場する先生方は、科学もあまり進んでいない明治時代初期の頃の先生方ですが、やがて偉大になる先生方だけあって、悟る力、洞察力等精神的レベルの高さが卓越しているといつも思わずにはおられない次第です。

**立教一八六年七月一日  
秋田教区婦人会総会開催**

委員部長、委員部長後継者を対象とし、秋田教区婦人会総会が開催されました。

式典後、四月の本部婦人会総会での真柱様メッセージ、婦人会長様のおはなし(みちのだい二〇五号に掲載)をもとに、

8班に分かれ、ねりあいが行なわれました。

婦人会本部で掲げて頂いている成人目標「ひながたをたどり、陽気ぐらしの台となりましょう」

活動方針「教祖百四十年祭に向かって育つ努力、育てる丹精に徹しよう」。

・元なる思召を伝え広めよう  
・老いも若きもおたすけの喜びを味



わおう」を心に、教祖百四十年祭に向かい、教祖にお喜び頂ける日々を通らせて頂きましょう。

**訃報****今野マキ子刀自お出直し**

当教会用木として皆様方と教会で親しく通らせて頂いておりました今野マキ子氏が、去る七月六日享年九十四才でお出直しになりました。同氏は、八十五才を過ぎて位から、名古屋市におられる次女小山峰子さん宅で、お世話を受けながら養生されておりましたが、同六日に眠るが如くお出直しされました。告別式は、当教会の会長さんが名古屋市に向かれ、市内のセレモニーホールで、斎主として、又東滝沢会長さんが副斎主として近親者の方々と共に執行させて頂きました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

**教会墓地、諸霊の塔への納骨式執行**

去る七月八日、九日の二日間に渡って、当教会墓地の諸霊の塔への納骨式が執行されました。

八日は、故今野正治氏の次女、豊浦正子さん御夫妻、工藤勝幸さん御夫妻の御参拝の元、午後一時より当教会後継者、佐々木由正氏祭主の元、故今野正治大人の御遺骨お遷しの儀を執行させて頂き、同大人の御遺骨を諸霊の塔に納骨させて頂きました。翌九日は、同じく午後一時より佐々木由正氏祭主の元、伊藤広喜家につながる方々が参集され、御遺骨お遷しの儀を執行させて頂き、伊藤家代々の御遺骨を諸霊の塔に納骨させて頂きました。

当教会では、教会諸霊の塔に対し御彼岸等の旬々には花を捧げ、心を込めて拝ませて頂いておりますが、これからも変わる事なく御霊様方をお偲び申し上げ、お仕えさせて頂きたいと思っておる次第です。

神宮講話 小野恭和理事

開扉・献饌の男子の方は**十時**まで、女子の方は、**十時二十分**までおつとめ着を着用し、神殿にご集合下さい。

矢島町分教会

青年会おやさとのきしん隊へ菊地諒さんが参加しました。

六月二十六日おやさと伏込みひのきしんへ矢浪所長と、会長が参加しました。

仁賀保分教会

六月二十六日のおやさと伏込みひのきしんに会長が参加しました。